機動第一旅団司令部略歴

通称号　満第八三五部隊、速第二五二二一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	5	16	軍令陸甲第五五号により臨時編成下令	
	5	31	吉林省　吉林において編成着手	
	8	31	主として各国境守備隊その他在満部隊よりの編入者をもつて編成完結	
			隷下部隊	
			機動第一連隊	
			機動第二連隊	
			機動第三連隊	
			独立気球第一中隊	
			（昭20 5 30 編成）	
	11	29	陸亜密第六七〇号により編成改正下令	
昭20	7	上旬	東満国境（老黒山――金蒼――汪精）地区の陣地構築のため司令部の一部（瀬々少佐以下一七名）を金蒼に派遣	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	10	主力は吉林出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	11	敦化着
8	15	停職
8	18	敦化出発
8	19	吉林着
8	20	同地において武装解除
		敦化に集結のため同日吉林出発
8	24	敦化着、将校と下士官兵を分離収容
8	29	敦化郊外沙河沿に移動
10	18	将校は将校大隊に編入後沙河沿出発、牡丹江、綏芬河経由入「ソ」
9	10	下士官兵は敦化作業第二三一大隊編入
9	18	沙河沿出発
9	30	満州里経由入「ソ」
9	15	金蒼に派遣された瀬々少佐以下は終戦後間島に移動、所在部隊と同行動し琿春より入「ソ」

旅団長

大佐　木下秀明

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機動第一連隊略歴

通称号　満第七五〇部隊　連第二五二二二部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	5	16	軍令陸甲第五五号により編成下令	
〃	8	31	編成要員は第二、第三、第四、第一二国境守備隊よりの転入者を主力とし、さらに在満各部隊の現役中より選出充当して公主嶺において編成完結	
昭20	7	20	主力は東満国境金蒼杜荒子付近に陣地構築のため出動、初年兵およびその教育要員は公主嶺において教育中　日「ソ」開戦となり連隊は二分された。	
〃	8	9	日「ソ」開戦 主力の行動	
自〃	8	9	日「ソ」開戦後部隊本部との連絡不能となり各中隊いづれも「ソ」軍と戦闘の	
至〃	8	下旬	後、杜荒子付近の山中深く入り終戦を知らず	
〃	8	31	杜荒子において武装解除	
〃	9	18	金蒼収容所に収容され将校は分離し間島に送らる 下士官兵の主力は第六三作業大隊に一部は第六一作業大隊に編入さる。 第六一作業大隊金蒼出発琿春経由入「ソ」	
〃	9	19	第六三作業大隊金蒼出発琿春経由入「ソ」	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

10	30	間島に送られた将校は将校第二作業大隊に編入、間島出発図們、琿春経由入「ソ」
		連隊本部初年兵教育隊の行動
8	11	宮川少尉以下約二〇〇名を残置し主力に追及のため公主嶺出発
8	15	敦化寧安街道を北進鏡泊湖畔に出動
8	17	停戦命令をうけ吉林に後退
8	20	吉林において武装解除後、敦化に移動、
		敦化郊外沙河沿にて将校を分離し作業大隊編成
10	18	将校は将校作業大隊に編入、沙河沿出発、牡丹江、綏芬河経由入「ソ」
9	18	下士官兵の主力は敦化第三三一作業大隊に編入沙河沿出発満洲里経由入「ソ」
9	22	下士官兵の一部は敦化第二三二作業大隊編入、沙河沿出発、満洲里経由入「ソ」
9	12	公主嶺に残置した宮川少尉以下は公主嶺第六作業大隊に編入
9	19	公主嶺出発　黒河経由入「ソ」
		連隊長
		大佐　岩本只芳

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機動第二連隊略歷

通称号　満第五〇二部隊　速第二五二二三部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭16	11	21	軍令陸甲第九二号により編成下令	
	12	15	吉林省吉林において在満各部隊より選出せる要員をもつて編成完結	
			編成	
			連隊本部	
			第一中隊	
			第二中隊	
昭19	5	16	軍令陸甲第五五号により編成改正下令	
	6	20	転進命令により吉林出発	
	6	21	鮮満国境図們通過	
	6	25	釜山着	
	6	30	現駐地帰還命令により釜山出発	
	7	1	鮮満国境図們通過	

爾後同地において橋梁爆破、通信網の切断等敵の後方撹乱を目的とする訓練にあたつた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	7 2	現駐地吉林着
	8 31	編成改正のため吉林省九站に移動し同地において編成改正完結、中隊を一二ケ中隊に増設
	12	吉林に移駐
	7 上旬	連隊長以下主力は東満国境老黒山、狼渓、黒営、豊焼の線に移動、同地において陣地構築作業
	8 9	日「ソ」開戦により「ソ」軍と交戦四〇余名の戦死者その他多くの損害をうけ各中隊は山中深く入りたるため本部との連絡不可能となり八月下旬にいたり漸く停戦を知る
	9 2	各隊は豊焼付近に集結
	9 3	同地において武装解除
	9 10	金蒼第六二、第六三作業大隊に編入
	9 13	第六二作業大隊金蒼出発
	9 26	入「ソ」「クラスキー」に収容
	9 19	第六三作業大隊金蒼出発
	10 10	入「ソ」「ポシエット」に収容
	8 20	吉林残留隊は同地において武装解除
	8 25	吉林出発　吉林省沙河沿に移動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5の3

自	9	10	敦化第二三一、第二三二、第二三三作業大隊に編入
至	9	18	
	9	22	敦化出発
自	9	下旬	満洲里経由入「ソ」
至	10	上旬	

連隊長
大佐　須藤勇吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機動第三連隊略歴

通称号　満第七五二部隊　速第二五二二四部隊

年月日	略歴	摘要
昭19 5 16	軍令陸甲第五五号により編成下令	
8 31	在満各部隊より選出せる人員をもつて吉林省公主嶺において編成完結	
昭20 7 20	爾後同地において訓練ならびに警備	
8 9	連隊長以下主力は間島省金蒼、汪清、小汪清付近において陣地構築に従事	
8 28	日「ソ」開戦	
8 30	局部的戦闘を交えたが大なる損害なく山中に入る。	
9 16	停職を知り金蒼および汪清付近にて武装解除	
9 3	部隊主力は間島において間島第二七、第三三、第三四、第三五等の作業	
9 16	大隊に編入	
9 11	間島出発	
9 25	琿春経由入「ソ」	
9 30	一部（主として第三大隊）は金蒼第六一、第六四等の作業大隊編入	
6 9 15		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自	8	18
至	9	19
自	10	5
至	10	15
	8	18

金蒼出発

琿春経由入「ソ」

公主嶺飛留隊は同地において武装解除後所在部隊と同一行動

連隊長

大佐　若松満則

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立気球第一中隊略歴

（第二気象連隊第七中隊）
通称号　徳第一三九九七部隊
　　羽第八三九八部隊

年月日	略歴	摘要
昭17 9 8	軍令陸甲第七一五号により編成下令	
9 30	新京において第二気象連隊第七中隊として編成完結	
10 5	龍江省平安鎮に展開。爾後気象観測業務に従事	
昭20 4 23	移駐のため平安鎮出発。同日洮南着。同日機動第一旅団司令官の隷下に入る。	
5 1	軍令陸甲第七五号により編成改正下令	
5 30	洮南において第二気象連隊第七中隊の人員を基幹として独立気球第一中隊編成完結。	
	編成	
	中隊本部	
	指揮小隊	
	放球小隊	
	自動車小隊	
	水素小隊	
	（洮南）	
8 13	新京集結のため洮南出発。	
8 15	大賓付近において停戦。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	23	主力は農安において「ソ」軍により武装解除。
8	27	新京に移動、建国大学に収容。
9以降	16	逐次新京出発。黒河経由入「ソ」

部隊長

少佐　富岡治三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍建設団司令部略歴

（関東軍築城部）
（関東軍臨時築城隊）
通称号　徳第一三九〇三部隊　満第二六四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭9	8	26	関東軍参謀部第二別班として編成	
			爾後満「ソ」国境付近の陣地構築作業に従事	
自	5		牡丹江省綏芬河、三江省半載河地区の陣地構築	
至昭10	9			
自昭11	5		黒河省璦琿、孫呉地区の陣地構築（岩崎隊、勝野隊）	
至昭12	12			
昭12	4		関東軍築城部に改編	
自昭13	1		東安省虎林、虎頭地区の陣地構築（太郎田隊、佐々木隊）	
至昭14	7			
自昭13	4		東安省東安地区の陣地構築（佐々木隊の一部）	
至昭14	10			
自昭13	3		綏芬河、東安省密山地区の陣地構築	
至昭	12			
自昭14	3		三江省富錦付近の陣地構築	
至昭15	12			
昭14	7		黒河省黒河付近の陣地構築（小笠原隊）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭15 3	三江省興山付近の陣地の構築	
至 12		
昭16 4 以降	黒河省孫呉付近の陣地構築（木暮隊）	
自昭15 5	間島省琿春付近の陣地構築（小泉隊）	
至昭16 12		
自昭16 3	興安北省烏奴耳付近の陣地構築（角谷隊）	
至 10		
自昭17 5	東安省鶏寧付近の陣地構築	
至 10		
昭18 3	関東軍臨時築城隊に改編	
自昭19 4 20	興安北省伊列克得付近の陣地構築	
至 12		
昭20 5 1	軍令陸甲第七五号により編成改正下令	
5 25	新京において関東軍臨時築城隊を基幹とし野戦道路隊および第一方面軍、第三方面軍等よりの編入者ならびに現地採用の技術者をもつて関東軍建設団司令部に編成改正完結	
8 11	爾後司令部は新京に位置し全満の防空施設および飛行場等の建設業務を担任	
8 14	主力は新京出発朝鮮中江鎮に向け転進	
	主力は中江鎮に到着陣地構築に従事、同日新京残留の中島少佐以下三〇名主力に追及のため新京出発	
8 15	中江鎮において停戦	
8 18	中島少佐以下中江鎮着、主力に合流	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8の3

8	19	中江鎮において部隊を解散単独又は小部隊としてそれぞれ南下部隊行動したものは朝鮮平壌において武装解除後将校は美鶴洞に下士官兵は三合里に収容され所在部隊と同行動入「ソ」
8	23	臨江に集結中の女子軍属は関根大尉指揮のもとに南下、平壌より倉田中尉、横田少尉、一部の下士官兵、女子軍属等釜山に向かい南下帰還。 部隊長 初代　大佐　前田正実 二代　大佐　河田末三郎 三代　大佐　久保禎三 四代　大佐　花井京之助

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第一建設隊略歷

通称号　徳第一三九〇四部隊

年月日	略歷摘要
昭20 5 1	軍令陸甲第七五号により編成下令。
5 30	吉林省下九台において関東軍臨時築城隊の人員を基幹とし第一方面軍および第三方面軍より技術将校を転属させ他は全満各地より特殊技術者を召集し次のとおり編成完結。 編成 第一大隊（一、二、三中隊）長大尉　吉田典海 第二大隊（四、五、六中隊）長少佐　山本欣治 第三大隊（七、八、九中隊）長大尉　西野清一郎 本部（下九台）
6 13	爾後主として蘇家屯、撫順、鳳凰城、白旗において飛行場および高射砲陣地構築作業に従事。 本部および第二、三大隊鳳凰城着。同日より第二大隊の二ケ中隊をもつて鳳凰城飛行場設定作業、一ケ中隊を豊満「ダム」に派遣陣地構築作業、第三大隊の第七、八中隊を白旗飛行場、第九中隊を安東に派遣高射砲陣地の構築作業に充てる。 第一大隊を同日蘇家屯に派遣。同日より飛行場および格納庫の構築作業、第三中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	隊を撫順に分駐させ高射砲陣地の構築作業に充てる。 開戦時における部隊の配置状況次のとおり 第一大隊（第三中隊撫順）　蘇家屯 本部　鳳凰城　第二大隊（一ケ中隊豊満ダム）鳳凰城 第三大隊（第九中隊安東）　白旗
8	停戦
15	停戦後の部隊行動次のとおり 一　八月二十三日関東軍建設団司令官の命令により現地召集者を解散 一　本部および第二、三大隊の主力は九月五日鳳凰城において武装解除された後安東に集結。奉天に移送された後九月十七日～九月二十三日奉天出発黒河経由入「ソ」 一　第一大隊は九月十六日蘇家屯において解散。撫順に派遣の第三中隊は大隊本部に復帰不可能となり八月二十八日同地において武装解除後鞍山昭和製鋼所撤去作業に従事 部隊長 中佐　天本良造

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第二建設隊略歴

通称号　徳第一三九〇五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
	5	25	吉林省九站において関東軍臨時築城隊の人員を基幹として全満各地より特殊技術者を召集し次のとおり編成完結。 編成 第一大隊（一、二、三中隊）長大尉　泥谷正治 第二大隊（四、五、六中隊）長大尉　石田未清 第三大隊（七、八、九中隊）長大尉　斎藤啓志 本部（九站）	
	8	12	爾後部隊を次の如く配置し飛行場設定、高射砲陣地および防空壕等の構築に従事。 第一大隊　新京 第二大隊　博克図（第六中隊五叉溝） 第三大隊　九站 本部九站 第一大隊北鮮中江鎮に向け新京出発。同日第二大隊主力本部に向け興安東省博克図出発。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8

15

停戦

停戦後の部隊行動次のとおり

一　本部および第三大隊は八月十五日四平省海竜に向け出発。八月十六日海竜着。八月二十三日同地出発。八月二十四日満浦鎮着、第二大隊を掌握、九月五日同地において武装解除された後朝鮮平壌に移送され爾後将校は美勒洞、下士官兵は三合里に収容され十月二十六日同地出発、十月三十日興南経由入「ソ」

一　第一大隊は関東軍建設団司令官の直轄となり八月十二日新京出発。北鮮満浦鎮着同地において停戦。九月五日武装解除され関東軍建設団司令部と行動を共にした。

一　第二大隊の第六中隊および博克図残留の一部は本隊復帰不能となり所在地高級指揮官の指揮下に入り行動を共にした、

（現地召集者は八月二十三日前後柳河、海竜、満浦鎮において召集解除）

部隊長

中佐　佐々木　清

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第三建設隊略歴

通称号　徳第一三九〇六部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 5 1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
5 30	吉林省九站において関東軍臨時築城隊の人員を基幹とし全満各地より特殊技術者を召集し次のとおり編成完結。 第一大隊（一、二、三中隊）長大尉　荒川光男 第二大隊（四、五、六中隊）長大尉　遠山勝右エ門 第三大隊（七、八、九中隊）長大尉　広渡国守 本部　九站	
8 8	爾後部隊を次の如く配置し飛行場設定および高射砲陣地の構築作業等に従事 第一大隊　大石橋 第二大隊　錦県 第三大隊　九站 本部　大石橋	
8 15	臨江に転進のため第二大隊は錦県第三大隊は九站本部は大石橋から夫々出発。 停戦	
	停戦後の部隊行動次のとおり 一　第一大隊は八月二十日大石橋において武装解除された後海城に収容十月十日	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「ポ」同地出発黒河経由入「ソ」

一　本部および第二大隊は臨江に転進途中蘇家屯において合流八月二十九日同地において武装解除後、八月三十日解散。

一　第三大隊は八月十七日通化省臨江着、八月二十日建設団司令官の命令により「ポ」地において部隊を解散。

一　第一大隊の大石橋飛行場建設作業援助のため一時転入の状態にあつた建設団工作隊山中見習士官以下八〇名および第二建設隊第四中隊長三好中尉以下七七名は原隊復帰不能となり第一大隊と行動を共にした。

部隊長

少佐　貴　志　重　光

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍建設団工作隊略歴

通称号　徳第一三九〇七部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令。	
	5	30	吉林省下九台において関東軍臨時築城隊の人員を基幹とし全満各地より技術者を召集し編成完結。 編成 電気隊（一、二小隊）長　技大尉　奥田　滋 機械隊（一部、二部）長　少尉　田中　進 本部　坑道隊　長　中尉　江中二郎 地質班　長　技大尉　南家正記 備砲班　長　准尉　門田八郎	
	6		本部は下九台に位置し各隊を逐次つぎの如く配置し飛行場設定および高射砲陣地の構築作業等に従事 第一小隊は六月十三日より鳳凰城において関東軍第一建設隊の飛行場設定作業に協力。 電気隊 第二小隊は六月三十日より大石橋において関東軍第三建設隊の飛行場設定作業に協力。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		機械隊
		一部隊は六月三十日より鳳凰城において関東軍第一建設隊、二部隊は大石橋において関東軍第三建設隊の夫々飛行場設定作業に協力。
		坑道隊は一部をもつて新京南嶺において坑道穿孔作業。
		地質班は一部をもつて新京南嶺において坑道穿孔作業。
	8 11	本部は臨江に転進のため下九台出発。
	8 15	停戦
		停戦後の部隊行動次のとおり
		一 本部主力は臨江に転進中、四平省梅河口において停戦。
		南嶺に派遣中の坑道隊および地質班の一部を急遽本部に復帰させ八月十七日北鮮中江鎮に前進、八月十八日軍属を解散し南下八月二十八日金江において「ソ」軍に収容される。軍属は同日南下
		一 電気隊第一小隊は九月五日鳳凰城において武装解除され爾後第一建設隊と同行動。電気隊第二小隊は八月二十日大石橋において武装解除され第三建設隊と同行動。
		一 機械隊の一部隊は電気第一小隊と同行動。二部隊は電気第二小隊と同行動。
		一 本部臨江に転進時下九台に残置の梶井少尉以下は建設団教育隊後藤大尉の指揮下に入り八月十四日下九台出発満浦鎮着、爾後建設団司令部と同行動。
		部隊長 少佐 中島龜一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍建設団材料廠略歴

通称号　徳第一三九〇八部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令。	
	5	30	吉林省下九台において関東軍臨時築城隊の人員を基幹とし全満各地より特殊技術者を召集し編成完結。	
			編成	
			本部　分廠　二　出張所　一	
			爾後部隊を次の如く配置し補給および輸送業務に従事	
			下九台　分廠（長）技中尉　西川　誠	
			奉天　分廠（長）技中尉　堀　忠孝	
			本部　下九台　大連出張所　（長）主中尉　竹内　英好	
			（一部臨江に分駐）	
	8	15	停戦	
			停戦後の部隊行動次のとおり	
			一　本部および下九台分廠は八月二十二日下九台において部隊を解散した後現地召集者を除き各個に朝鮮満浦鎮に集結九月五日同地において、武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

後平壌に移動下士官兵は三合里将校は美勒洞に収容され軍属は抑留前に解散。

一 奉天分廠は八月二十五日同地において解散。

一 大連出張所は同地において「ソ」軍に抑留された後脱出帰還。

一 臨江に分駐の人員は八月末本部に合流。

部隊長

技大尉 五十嵐 磐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍建設団教育隊略歴

通称号　徳第一三九〇九部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
	5	30	四平省下九台において関東軍臨時築城隊の人員を基幹として編成完結。（約三〇名） 本部・学生隊	
	8	14	爾後下九台において教育業務に従事。 建設団工作隊下九台残置人員と合流同日下九台出発。	
	8	15	通化省臨江着、同地において停戦。 同日臨江出発。	
	8	19	北鮮中江鎮着。	
	8	21	中江鎮出発。途中満浦鎮において建設団司令部幹部と合流。	
	8	22	平壌着。一部は更に釜山に向け南下、主力は同地において武装解除。	
	10	30	興南経由入「ソ」	

部隊長　中佐　吉田　勉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍通信隊司令部略歴

通称号　徳第三七六〇六部隊　満第七五八〇部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
	8	5	新京敷島高等女学校において関東軍固定通信隊本部および第二航空固定通信隊復帰の一部の人員を基幹として編成完結。	
			爾後司令部は新京に位置し内地（大本営）および全満の軍骨幹通信業務に従事	
			関東軍通信隊の編合	
			関東軍通信隊司令部	
			材料廠	
			第一―第三通信隊	
			電信第五七連隊	
			関東軍鳩育成所	
			関東軍軍犬育成所	
	8	9	開戦に伴ない司令部は南嶺に移動	
	8	14	新京の通信中枢を通化に移動のため材料廠長高原少佐以下八〇名、先発隊として南嶺出発。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	15	司令部は通化に移動準備中南嶺において停戦。
8	17	高原少佐以下通化着。
8	18	高原少佐以下五〇名（横室少尉以下三〇名を残置）は主力に復帰のため通化出発。
8	22	高原少佐以下南嶺着。主力に復帰。
8	23	主力は南嶺において「ソ」軍により武装解除。
9	5	将校、下士官兵に分離され作大編入。
10	22	新京出発。黒河経由入「ソ」。
		「一部の行動」
		通化残置の横室少尉以下三〇名および八月三十日通化派遣の大原少佐以下二〇名は所在地高級指揮官の指揮下に入り行動を共にした。
		部隊長
		少将　田山文治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第一通信隊略歴

通称号　徳第三七六〇七部隊　満第七五八六部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
8 5	新京において第一一固定通信隊及び第二航空固定通信隊復帰の一部を基幹とし編成完結。	
	同日関東軍通信隊司令部の隷下に入らしめられ次の編成をもつて南満州に通信網を構成し軍骨幹通信を担任す。	
	編成	
	本部 通信所（一二） 送信所（一）	
8 9	本部南嶺に移動。	
	同日における部隊の展開状況次の如し	
	本部　南嶺	
	通信所、新京、奉天、大連、遼陽、承徳、撫順、錦県、鞍山、安東、通化、本渓湖、哈爾浜	
	送信所、寛城子	
8 10	新京の中枢通化移転のため新京通信所の一部を通化に派遣。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通信隊司令部の指揮を受けしむ。

停戦

停戦に伴い左の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」。

一、新京通信所（通化派遣中の人員は八月十九日復帰）及び寛城子送信所は新京主力に復帰し八月二十二日同地において武装解除されたる後十月二十二日新京出発、黒河経由入「ソ」

一、奉天通信所は八月二十日奉天において武装解除されたる後北陵に集結し十一月十九日入「ソ」

一、哈爾浜通信所は八月二十日孫家において武装解除されたる後海林に集結入「ソ」

一、安東通信所は八月二十日安東において武装解除され北陵に集結したる後入「ソ」

一、錦県通信所は八月二十日遼陽において武装解除され海城にて作業大隊に編入されたる後入「ソ」

一、大連、遼陽、撫順、承徳の各通信所は夫々所在地高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を共にした。

部隊長

大佐　島　義

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第二通信隊略歷

通称号　徳第三七六〇八部隊　満第七五八三部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
8 5	牡丹江において第一二固定通信隊及び第二航空固定通信隊復帰の一部を基幹とし編成完結。同日開東軍通信隊司令部の隷下に入らしめられ左の編成をもつて牡丹江方面の骨幹通信を担任す。 本部　約三〇〇名〈勤務中隊　八〇名／通信所　六五〇名〉	
8 9	部隊の開戦時における配置の状況次の如し本部及び勤務中隊　牡丹江 通信所　牡丹江、西牡丹江、琿春、平陽、城子溝、東安、掖河、佳木斯、間島、綏陽、敦化	
8 10	開戦と共に第二通信隊は第一方面軍の指揮下に入らしめられ、方面軍司令部の敦化移駐に伴い本部は牡丹江出発敦化に向う。	
8 13	本部は敦化着。同日琿春、東安、綏陽、城子溝、平陽の各通信所を撤収敦化に集結せしめ、そ	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	の人員をもつて敦化通信所を開設し関東軍司令部及び第一方面軍隷下部隊との通信連絡に従事。 同日牡丹江、西牡丹江、掖河の各通信所（約八〇名）を哈爾浜に集結せしめ第三通信隊の指揮下に入らしむ。
8	停戦
15	停戦に伴い次の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」 一、本部及び琿春。城子滞。平陽。東安の各通信所は八月二十二日敦化において武装解除されたる後自九月二十七日至十一月三十日敦化出発、綏芬河経由入「ソ」。 一、牡丹江受信所、勤務中隊及び牡丹江、西牡丹江、掖河の各通信所は八月二十二日孫家において武装解除されたる後綏芬河経由入「ソ」す。 一、佳木斯及び間島通信所は所在地高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を共にした。 部隊長 大佐　松原作治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第三通信隊略歴

通称号　徳第三七六〇九部隊　満第七五八三部隊　満第七五八四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
	8	5	斉々哈爾において第一三固定通信隊及び第一四固定通信隊の一部ならびに第二航空固定通信隊復帰の一部人員をもつて編成完結。 本部、通信所、作業隊 同日関東軍通信隊司令部の隷下に入らしめられ本部は斉々哈爾に位置し、作業隊を通化に派遣、通信所を左の如く配置し北満地区における骨幹通信を担任。 通信所　斉々哈爾、海拉爾、鄭家屯、孫呉、五叉溝、阿爾山、北安	
	8	11	開戦と共に第四軍司令部の哈爾浜移動に伴い主力は哈爾浜に移動第一通信隊哈爾浜通信所及び第二通信隊牡丹江、西牡丹江及び掖河通信所と合流指揮下に入らしむ。 （九日孫呉及び海拉爾通信所の一部は交戦）	
	8	15	停戦 停戦に伴い左の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」 一、主力は八月十九日哈爾浜郊外孫家において武装解除され海林収容所に収容さ	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

れたる後黒河経由入「ソ」。

一、海拉爾通信所は斉々哈尓通信所と合流八月二十日旧第四軍司令部宿舎に、おいて武装解除されたる後満州里経由入「ソ」す。

一、孫呉通信所は第一二三師団の指揮下に入らしめられ八月十八日北孫呉において武装解除されたる後九月十三日同地出発黒河経由入「ソ」。

一、通化派遣の作業隊及び新京派遣の下士官、兵は夫々所在地高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を共にした。

部隊長

中佐　渡辺利興

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第一八連隊略歷

通称号　徳第七五八八部隊

年月日	略歷	摘要
昭17 9 7	軍令陸甲第七四号により編成下令	上記電信第一八連隊編成の基幹となつた第一一通信隊および各独立中隊は昭和十六年七月関特演参加のため東京・仙台・名古屋・岡山等内地において編成され渡満した部隊である。
10 31	興安省免渡河において第一一通信隊本部（含材料廠）および独立有線第六二、六四、六九中隊、独立電信第八中隊の人員をもつて編成完結。爾後本部は免渡河に位置し主として満州里～阿爾山方面の通信業務および警備に従事。	
	編成	
	第一中隊　長　麻生大尉	
	第二中隊　長　江口中尉	
	本部	
	中佐　桜川豊男	
	第三中隊　長　井ノ口中尉	
	第四中隊　長　菅　中尉	
	材料廠　長　相原中尉	
昭18 10 29	移駐のため免渡河出発。	
19 10 30	新駐地竜江省土爾池哈着。	
昭19 10 16	部隊長中佐　渡辺利興着任。編成次のとおり。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20		
5		
30		第一中隊（有線）長中尉　富田　竜 第二中隊（無線）長中尉　大橋　清志 本部（土爾池哈） 中佐　渡辺利興 第三中隊（有線）長中尉　高畑　繁 第四中隊（有線）長中尉　菅　康次 材料廠……長中尉　相原　市郎 関作命乙により第二中隊長大橋大尉を長として各中隊より人員を抽出して混成中隊を編成し、通化に派遣。爾後関東軍司令官直轄通信中隊として本渓湖～通化（板仁）間の重構成通信線架設作業（雷演習と呼称）に従事。
7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令。
7	28	部隊長少佐沢田寿夫着任。
8	5	土爾池哈において編成改正完結（一部自動車編成より馬編成となる） 編成 第一中隊（有線）長中尉　落合　直芳 第二中隊（無線）代中尉　江原　利十 第三中隊（有線）長大尉　高畑　繁 第四中隊（有線）長中尉　羽太　二男 材料廠……長中尉　阿部　進 分遣隊……齋々哈爾・富拉爾基、北安・海拉爾・阿爾山・満州里等

外七カ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至		
8	7	動員下令。
8	10	編成完結。同日海拉爾分遣隊復帰。
8	12	主力は関作命により新京に移駐のため土爾池哈出発。
8	15	斎々哈爾において停戦。同日哈爾浜に向け南下。
8	17	奉天派遣者（教育）復帰。
8	23	孫家において武装解除。同日現地召集者を召集解除。
8	28	牡丹江省海林に移動。
10	10	主力は牡丹江出発。綏芬河経由入「ソ」。
11	18	「通化作業隊および分遣隊の行動」
		一　通化派遣隊は通化において停戦。関東軍司令部の新京復帰にともない八月十八日通化出発、途中公主嶺において武装解除、八月二十一日新京着、爾後関東軍司令部と行動を共にした。
		一　本部に復帰不能となつた各派遣隊は所在地高級指揮官の指揮下に入り行動を共にした。
		歴代部隊長
		中佐　桜川豊男
		中佐　渡辺利興
		少佐　沢田寿夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第五七連隊略歷

通称号　徳才三七四〇一部隊

年月日	概要	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲才一〇六号により編成下令	
7 30	浜江省成高子において固定通信隊本部、通信教育隊電信才一七、才一八、才四二連隊等からの差出人員を基幹とし在満召集者を充当して編成完結	
8 9	日「ソ」開戦	
8 10	通信隊司令部より新京移駐の命あり	
8 11	部隊主力は成高子出発新京着	
8 12	残余の部隊新京着	
8 15	才三〇軍司令官の指揮下に入る。	
	停戦	
8 18	午後在満応召者召集解除	
8 19	新京において武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	20	部隊主力新京出発、堀江准尉以下一三〇名残留
8	26	公主嶺着
		爾後同地において所在部隊間の通信網の建設補修等に従事
9	19	蹄見中尉以下二一七名は公主嶺作業才一四大隊に編入
9	22	公主嶺出発
10	18	黒河経由入「ソ」
10	16	鈴木少佐以下部隊主力は公主嶺作業才一三大隊に編入
10	17	公主嶺出発
12	6	黒河経由入「ソ」
9	7	新京に残留せる堀江准尉以下新京作業才一二大隊編入
9	10	同地出発
9	22	黒河経由入「ソ」

隊長　少佐　鈴木梯吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍水上輸送隊略歴

通称号　徳第二五二二六部隊　満第四五九部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により臨時編成下令。	
7 30	「ハルピン」において関東軍水上司令部復帰の人員及び第一二三停車場司令部、第一五五停車場司令部の人員を編成せしめ編成完結。 本部は「ハルピン」に位置し、支部及び勤務中隊を左の如く配置し黒龍江、松花江及び「ウスリー」江等における軍需輸送業務に従事。 支　部　佳木斯、黒河、通化 分遣所　方正 勤務中隊　「ハルピン」（第一中隊） 安　東（第二中隊） 吉　林（第三中隊） 通　化（第四中隊）	
8 15	停戦 停戦に伴い左の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」す。 一、主力（本部、黒河支部、勤務第一中隊）は八月二十二日「ハルピン」におい	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

て武装解除され海林に収容されたる後入「ソ」す。
一、佳木斯支部は開戦とともに逐次依蘭に後退八月十八日同地において武装解除されたる後入「ソ」す。
一、方正分遣所は八月十八日同地において武装解除されたる後入「ソ」す。
一、通化支部は八月十八日同地において武装解除されたる後入「ソ」す。
一、勤務第三中隊は吉林において八月二十五日、勤務第二中隊は安東において九月二日、勤務第四中隊は「ハルピン」本部と合流同地において九月二日夫々武装解除されたる後入「ソ」す。

部隊長
大佐　高橋卓三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍建築勤務第八一中隊略歴

（臨時建築勤務第一中隊）
通称号　徳第一三九九六部隊

年月日	略歴	摘要
昭19 11 10	関総参編第九二六号により鉄嶺において軍隊区分により編時建築勤務第一中隊編成完結。	
5 1	軍令陸甲第七五号により編成下令。 鉄嶺において左記の如く編成完結、建築勤務第八一中隊と改称す。 本部　約三〇名 第一小隊　約一五〇名 第二小隊　約一五〇名 第三小隊　約二二〇名	
6 27	第二、三小隊を四平省東豊飛行場兵舎建築のため派遣。	
7 29	第一小隊を奉天省大石橋飛行場兵舎建築のため派遣。	
8 15	本部は鉄嶺、第一小隊は大石橋飛行場、第二、三小隊は東豊飛行場において停戦。 停戦に伴ない次の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」す。 一、本部は八月二十日鉄嶺において武装解除後一部を除き二十年九月十四日四平出	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

発、黒河経由入「ソ」。

一、第一小隊は八月十九日大石橋出発本部と合流鉄嶺において武装解除されたる後入「ソ」。

一、第二小隊主力は撫順において武装解除一部は四平において武装解除されたる後黒河経由入「ソ」。

一、第三小隊は八月十五日本部に合流すべく鉄嶺に向う途中四平において武装解除されたる後九月十四日四平出発黒河経由入「ソ」。

部隊長

中尉　桜井尚雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第三勤務隊略歴

（関東軍造船作業隊）

通称号　満第六八八部隊　徳第一三九七一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	8	25	軍隊区分により在満各隊より技術者を集め関東州柳樹屯において関東軍造船作業隊を編成、爾後同地において造船作業に従事	
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
	5	10	関総参編第三四〇号発令	
	5	31	柳樹屯において関東軍造船作業隊を改編し関東軍第三勤務隊編成完結。同地において造船作業に従事	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	
	8	25	柳樹屯において武装解除後同地に収容	
自	8	30	夏家河子において道路作業	
至昭21	6	18		
自昭21	6	18	三十里堡において飛行場建設作業	
至昭22	3	20		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

23の2

4	3	大連港出帆
2	28	博多上陸帰還

隊長 中佐 上原猛雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第四勤務隊略歴

（関東軍造船作業隊）

通称号　満第四二八部隊　徳第一三九七二部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	8	25	軍隊区分により在満各隊より技術者を集め関東州柳樹屯において関東軍造船作業隊を編成。爾後同地において造船作業に従事。	
昭20	5	1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
	5	10	関総参編第三四〇号発令	
	5	31	柳樹屯において関東軍造船作業隊を改編し関東軍第四勤務隊編成完結。	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	17	終戦により凌水屯より柳樹屯に移動	
	8	22	同地において武装解除	
	9	13	凌水屯に移動	
昭21	4	12	以後「ソ」軍の労役に従事す 旅順作業大隊に編入 中共軍に留用	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭22	3	28	大連港出帆
	4	2	博多上陸

隊長
中佐 祖川 貞

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍第一一勤務隊略歴

通称号　満第一四四部隊　徳第一三九七九部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	9	上旬	軍隊区分により在満各隊より技術者を選出せしめ満第一四四部隊（仮称関東軍特殊勤務隊又は臨時第三勤務中隊）として奉天省撫順において編成	
昭20	5	1	撫順炭鉱機械製作所、製油工場等において勤務し電気機関車、蒸気機関車、工作機械等の運転・修理、通信網の整備、石炭の露天堀作業等に従事	
	6	1	軍令陸甲第七五号により編成下令	
			満第一四四部隊を基幹とし、さらに在満技術者を召集し撫順において編成完結	
			前任務を続行	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	27	撫順において武装解除	
	9	16	奉天第三八作業大隊編入	
	9	19	奉天出発	
	10	14	黒河経由入「ソ」	
			隊長　大尉　品川　猛	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

関東軍技術部略歴

通称名 徳第二五二九五部隊　満第六三部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭12	8	30	龍江省斉々哈爾において編成完結。 爾後次の編成をもつて各種兵器、器材、車輛に対する耐寒、耐熱、試験及び電離層等の研究業務に従事。 本部〈第一班　庶務 第二班　砲兵及び歩兵関係兵器 第三班　車輛 第四班　工兵器材 第五班　無線通信、電離層関係〉	
自昭14 至昭15	7	29	一部「ノモハン」事件参加。	
	9	16	軍令陸甲第一四号により編成改正完結。	
	7	10	第五班（研究所）を斉々哈爾に残置し主力は移駐のため斉々哈爾出発。	
17	3	24	新京着。	
	3	25	部隊主力新京出発。	
20	8	13	吉林着	
	8	14		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8

15

吉林において停戦

停戦に伴い主力は同日吉林出発、京城経由昭和二十年九月内地上陸復員。

斉々哈爾に残置の研究所は開戦と同時に哈爾浜防衛司令官の指揮下に入り八月二十三日防衛司令部の阿城移動に伴ない解散。

部隊長

初代　大佐　平野　熙

二代　大佐　勝村　福次郎

三代　大佐　小野　行守

四代　大佐　杉谷　宗一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp